

# 『万選青銭』四卷一簡易宣講書の先駆

阿部 泰記

## 一 はじめに

本書の版本としては早稲田大学風陵文庫蔵本が知られており、早稲田大学図書館編『風陵文庫目録』（一九九九年四月）解説によれば、旧帙の題箋に『宣講万選青銭』と題するという。封面を欠き、書名・出版者等の事項が不明であるが、巻一の前一～四葉の版心に『万選青銭』と題し、巻一の宣講規則では『万選青銭』と命名したと述べ、巻二「悔悟活命」ではこの案証を『万選青銭』に収録したと記載していることから、書名は『万選青銭』である。半葉九行、一行二十四字で、第一・二冊一〇七頁、第三・四冊一〇二頁、総二〇九頁である。

ところが別に版式は同じながら内容を異にする版本があり、<sup>1</sup>その第一冊には封面がある。封面表に「送君書望君行 君不看送他人 若汚穢罪不軽 能体贴福寿増／万選青銭／板存夾邑茶房頭道河沈家堀<sup>2</sup> 願印送者自備紙張不取板費」、封面裏に「宣統二年歲官庚戌翻刻／聖諭証積／共計四本二百一十一頁」と刻す。「夾邑」とは四川省夾江県を指し、宣統二年（一九一〇年）の翻刻本である。ただこの翻刻本は第一冊第一巻しか現存しない。早稲田大学蔵本と同じく半葉九行、一行二十四字である。

以上の二種の版本は巻一冒頭に〔宣講聖諭規則〕<sup>3</sup>を掲載しており、これを省略する後の簡易宣講書より古い形態を遺している。またそこには清末・民国初期における四川省の事例を掲載しており、編纂時期・編纂地も明白である。ただ本書は冒頭に清朝の「聖諭六訓」「聖諭十六条」を宣読する体裁を取っているが、案証は必ずし

もこうした聖諭によって分類されておらず、全四巻として道徳の中でも比較的重要な孝・悌・節・義を説く案証を収録しており、宣講書が次第に主要な徳目を重視していくようになったことを示唆している。本論では本書を通じて宣講書の簡易編集について考察してみたい。

## 二 聖諭読誦と宣講の靈験

『万選青銭』巻一冒頭の〔宣講聖諭規則〕では、順治帝の「聖諭六訓」、康熙帝の「聖諭十六条」、乾隆帝の「聖諭広訓」を読誦している。

宣講生宜三跪九叩、<sup>4</sup>恭読「聖諭六訓」……再恭読「聖諭十六条」……王章読畢。講我朝世祖章皇帝頒行「聖諭六訓」、聖祖仁皇帝頒行「聖諭十六条」、世宗憲皇帝頒行「聖諭広訓」、河東王又樸註為「衍義」。……況又各州府県、設立文武官員、教諭約正、遵行宣講。屢次議准、軍民生童人等、通行講読。（宣講生は三跪九叩し、<sup>5</sup>恭しく「聖諭六訓」を読み……再び恭しく「聖諭十六条」を読むべし。……王章を読み終えると、我が朝の世祖章皇帝が頒行した「聖諭六訓」、聖祖仁皇帝が頒行した「聖諭十六条」、世宗憲皇帝が頒行された「聖諭広訓」、河東の王又樸が註した「衍義」を講ずべし。……況や又各州府県は、文武の官員、教諭・約正を設立し、宣講を遵行すべし。屢次議准し、軍民・生童人等に曉諭し、講読を通行すべし。）

聖諭の読誦の後には本書の編集の意図につい

て述べ、新しい勸善懲悪故事を好む聴衆のために新に案証を精選したことから『万選青錢』と命名したこと、専ら無学な庶民の修身の教科書として編集したものであり、学問をした者には不必要であることを述べている。

怎奈如今的人、每多驚奇好異、厭故喜新、不得已才將世事人情善惡報応、真選之又選、故名『万選』、如錢之為錢最重青錢、集而成卷、顔曰、『万選青錢』。其意淺、其詞俗、原為愚夫愚婦而講修身齊家之事、至德要道之情。若夫大雅君子、安取夫此。(如何せん今人は、常に奇異な話を好み、古い話を嫌って新しい話を喜ぶので、仕方なく世事・人情・善悪・報応をそれこそ選びに選んだ。故に『万選』と名付けた。ちょうど錢の中の錢が最も青錢を重んじるように、集めて巻を成し、『万選青錢』と題した。その意は浅く、その詞は俗で、もともと愚昧な男女のために修身・齊家のこと、至徳・要道の情を講じるものであり、大雅・君子が取り上げるほどのものではない。)

また宣講の要領と、宣講の靈妙な効果について述べ、宣講の実践を推奨している。

- 一、宣講必須声音嘹唳、情詞懇切。喜怒哀楽、伝其神氣、自能動人。不可信口説過、亦不可遊戯。(必ず大きく発声し、丁寧に発言して、喜怒哀楽の情を込め、聴く者を感動させる。)
- 一、宣講必須品行徳行、言語心術俱端方。正己始能化人。(必ず品格があり、端正な者が行ってこそ、人を感化できる。)
- 一、宣講定有神靈監察。……忽見閔聖人自天而降、端坐廟中。……可見講者聴者各宜誠意。(神靈が監察しているので誠意を尽くすべきである。閔帝が出現したこともある。)

一、宣講能除瘋疾。(精神疾患を除くことができる。)

一、宣講能驅瘟疫。(疫病を除くことができる。)

一、宣講能祈雨。……又宣講可以免刀兵。……又宣講可以勸鳥雀。……又宣講可以動風雷。(雨乞いがかない、戦乱を免れ、動物も感応し、風雨を呼ぶことができる。)

この中には、「壬子年(一九一二年)、湖北乱。」「新繁県(四川成都府)多老鵠、辛亥年(一九一一年)、尽行飛去。」「永邑(四川永寧)李家、庚戌年(一九一〇年)。」「癸丑年(一九一三年)、川南地方春乾。」「高邑(四川高県)鄭士貴、母病瘋癲。」「馬邑(四川馬辺県)李国光、妻江氏。」「富邑(四川富順県)李其昌之妻黄氏。」「屏邑(四川屏山県)官正川家富。」「辛亥年、榮邑(四川榮県)謝家」の事例を挙げており、<sup>6</sup>本書が清末から民国にかけての時期に四川省で編集されたことをうかがわせる。

### 三 本書の目録

宣統二年刊本の前七葉には四卷五十二篇(一卷十五篇、二卷十四篇、三卷十三篇、四卷十篇)の目録を記載している。<sup>7</sup>(\*印を付した案証は早稲田大学蔵本には無い。\*\*)印を付した案証は宣統二年刊本には無い。)

卷一目録一「全家福寿」、「沈香報孝」、「雷神全孝」、「太乙指地」、「四逆遭誅」、「養女失教」、「順妻逆親」、「善惡分明」、「文武状元」、「遇雨談恩」、「至誠感弟」、「装病化親」、\*「蓮花現母」<sup>8</sup>、\*「変猪還賬」、\*「悔罪獲福」

卷二目録一「仮装和尚」、\*\* («大堂悔罪」)<sup>9</sup>、「欺兄庄弟」、「修徳回天」、「二虎同埋」、「蘭芳節孝」、「仮鬼護節」、「宮花入夢」、「灶神靈驗」、「改過換子」、\*「敗

節変猪」、「悔過活命」、\*「感神救命」、  
\*「能知大義」、\*「嗜賭受刑」

卷三目録一「三喜臨門」、「天送状元」、\*\*  
「蓮花現母」、「孝魂礼仏」、「褫靈悔  
罪」、「全靠天話」、「忠孝節義」、「女中  
君子」、「状元拜墳」、「聖帝搬家」、「祖  
上有徳」、\*「保命金丹」、「大堂悔罪」、  
\*「婆賢媳孝」

卷四目録一「天官賜福」、「二姓同栄」、\*\*  
「忍氣旺夫」、「忍敵災星」、「紅蛇纏  
身」、「案中有案」、「成敗由婦」、「倪氏  
勸夫」、\*「黜邪崇正」、\*「同登道岸」、  
\*「直上天梯」

なお目録の末尾には、宣統二年に林棟樑等が  
募金活動をして刻版を完成したという説明が李  
芳齋によってなされている。その中には沈姓の  
者が多く、封面に記すように沈家壩において編  
集がなされたことがわかる。

宣統二年庚戌中秋節、<sup>領袖</sup>林棟樑・沈意誠・  
鄭斐然・蕭太和・沈善元・沈香譜等、募化  
刊刻、全部板既刻成、独林公棟樑之力為多。  
如有印送者、自備紙張、不取板費。李芳  
齋敬書（宣統二年庚戌の中秋節、<sup>領袖</sup>林棟樑・  
沈意誠・鄭斐然・蕭太和・沈善元・沈香譜  
等が寄付を募って刊刻し、全部の版刻が完  
成したが、林棟樑公が最も尽力された。も  
し印送を希望する者があれば、印刷用紙を  
準備すれば、印刷費用はいただかない。李  
芳齋敬書す）

#### 四 各巻の案証

案証の分類と梗概は以下のごとくである。<sup>10</sup>

巻一にはまず**孝・不孝**の案証を子・嫁・孫に  
分けて掲載し、ほかに**悌**の案証二篇、**善悪**の案  
証二篇を掲載している。

「全家福寿」（一～三葉）（宣四場）一**嫁の孝**。崇

明県、呉大爺の嫁たち。仲良く舅姑を養つ  
て長寿を得る。

「沈香報孝」<sup>11</sup>（四～八葉）（宣二場）一**子の孝**。  
紹興府、張二娃。山神が沈香木を与えて皇  
後の病気を治させ、その子孫が官職を得る。

「雷神全孝」<sup>12</sup>（九～十四葉）（宣四場）一**子と嫁  
の孝**。万県、張全。子を得るために善行を  
行つて財産を潰し、妻艾氏の犠牲で嫁を娶  
る。嫁は宝石を質に入れて姑を請け出そう  
とするが、盗賊が入つて金を盗まれたため  
自害する。雷神は嫁を復活させ、盗賊を誅  
殺する。

「太乙指地」<sup>13</sup>（十五～二十葉）（宣一場）一**子の  
孝**。泰安、張豆腐。雪道に難儀する太乙真  
人を家に泊めると、黄員外が母の墓地を提  
供して親戚になり、科挙に及第する。

「四逆遭誅」<sup>14</sup>（二十一～二十五葉）（宣二場）一  
子**の不孝**。雲南富民県、余明星。四子が不  
仲で分家し、病死した後に妻が四子に酷使  
される。結果、長男は殺人罪で処刑され、  
次男は境界争いで打ち殺され、三男は牛と  
一緒に崖から転落死し、四男は気が狂つて  
壁に頭を打つて死ぬ。

「養女失教」（二十六～三十一葉）（宣三場）一**嫁  
の不孝**。乾隆間、湖広漢川県、鄧化宇の嫁  
黄氏。怠惰で次男の嫁や姑を虐待したため、  
総督から処刑の審判を下される。

「順妻逆親」（三十二～三十五葉）（宣一場）一**子  
と嫁の不孝**。喩家の息子夫婦。病気の姑の  
投薬も惜しんだため、舌にこぶができて死  
ぬ。

「善悪分明」（三十六～三十九葉）（宣二場）一**子  
と嫁の孝不孝**。昔、龍游（浙江）、徐兄弟。  
分家して兄夫婦は本家を相続できず、貧乏  
で老母を養えず、弟夫婦は本家を相続して  
裕福だが、不孝で老母を虐待する。弟夫婦  
は老母を追い出し、雷に打たれて死ぬ。

「文武状元」<sup>15</sup>（四十～四十三葉）（宣二場）一**孫  
の孝**。祝辛。善行で得た子善生が科挙に及

第するが病死し、善生の子瀛州が祝辛を養うが、負ぶった時転んで死んだため、閻魔王が訴えを聴いて上帝に上奏すると、祝辛は復活し、瀛州は状元に及第し、瀛州の子も武状元に及第する。

「**遇雨談恩**」<sup>16</sup>（四十四～四十七葉）（宣二場）一**悌**の**不孝**。昔、余先達。古墳を移したため、子光閻が短命で死に、光閻の妻も後を追って死ぬ。先達の妻何氏は孫開化を育てるが、家財を擦って家を去る。悲観した何氏は自害して開化の妻に乗り移って開化を罵り、夫婦は傷つけ合って死ぬ。

「**至誠感弟**」（四十八～五十葉）（宣二場）一**悌**。明代、次男の陳世恩。夜遊びする三男の弟を毎夜門で待って弟を感化する。

「**装病化親**」（五十一～五十五葉）（宣一場）一**悌**。福建省、林国奎。死後、妻鄭氏は後妻の姑に再婚を強要されて自害しようとするが、甥国璽が重病を装って母を戒めて嫂を救う。

「**変猪還眼**」（六十二葉裏～六十七葉表）<sup>17</sup>（宣二場）一**詐欺**。光緒年間、洪邑（四川洪雅県）、張有順。石灰を売る。貪欲。重量を偽って王徳華に売ったため、誰も買わなくなる。賈二喜に借金して返さず、天に誓いを立てたとおり、豚になって借金を返す。

「**悔罪獲福**」（六十七葉裏～七十五葉裏）<sup>18</sup>（宣五場）一清朝道光年間、湖南省岳州府平江県、魏興邦。**悔悟**。偽の薬を売ったため、一子安富が失踪し、妻周氏も病死する。興邦は竈神に懺悔する。姨表の李光文に魚蝦を食べると病気になると誠めるが、光文は聴かず、病死する。興邦は昔救った趙洪源が報恩のため訪れ、失踪した安富を連れて来る。

卷二には卷一末尾の二案に続けて**悌**の案証を三篇、その後に**女子**の案証を七篇、最後に**男子**の案証に二篇を付加して掲載している。

「**仮装和尚**」（五十六～六十葉）（宣一場）一**悌**。昔、雅州、曾兄弟。嫁同士の仲違いで分家

するが、あるきっかけで兄弟は仲直りし、廟に逃げ出し、和尚に扮して嫁に改心させる。

「**大堂悔罪**」（六十一～六十四葉）（宣一場）一**悌**。虔州、何兄弟。嫁を娶って仲違いし、相手を訴えるが、知事は兄弟に一日中対面して兄弟と呼ばせ、良心を呼び覚まさせる。

「**欺兄庄弟**」<sup>19</sup>（六十五～六十九葉）（宣一場）一**悌**。文安県、朱三兄弟。次男夫婦は横暴で、分家して良田を取るが、天災で収穫が無く騒ぎ出したため、兄弟は母屋を次男に譲る。次男は夢に亡父に罵られて死に、兄弟の子は科挙に合格する。

「**修徳回天**」（七十～七十三葉）（宣一場）一**嫁の友愛**。崔氏。蘇家に嫁いで分家の不経済を説いたり、実家から持ち帰った物を分けたりして三人の嫂を感化し、長寿を全うする。

「**二虎同埋**」<sup>20</sup>（七十四～七十八葉）（宣二場）一**母の溺愛**。梁山県陳錫の娘は李家に嫁いで騒ぎを起こし、竈神を罵ると虎に変化してその訳を話す。実家の母も娘を甘やかした罪で病死し、一緒に埋葬される。

「**蘭芳節孝**」（七十九～八十二葉）（宣二場）一**節婦**。雲南、林章魁の嫁涂氏。子と夫と姑を亡くすが、舅に後妻を娶らせて子孫を遺させ、自分の乳で育てて、科挙に合格させた後、成仏する。

「**仮鬼護節**」<sup>21</sup>（八十三～八十七葉）（宣二場）一**節婦**。会理州、陸上清の嫁林氏。上清と妻年氏、夫存厚も死ぬと、張裁縫が死に神に扮装して脅そうとするが、死者に扮装した林氏を見て存厚の亡霊だと誤解し、驚いて死ぬ。

「**宮花入夢**」<sup>22</sup>（八十八～九十二葉）（宣一場）一**惜字**。湯陰（河南）、石燕飛の娘良英。燕飛が字を惜しまず失明したため竈神に祈ると、仙童に導かれて冥界に至り、燕飛が目を刺されるのを目の当たりにする。良英は目が覚めて燕飛に字を惜しむよう諭す。

「灶神靈驗」(九十三～九十六葉)(宣二場)一敬  
竈。貴州、何柔の妻申氏。竈神を敬わず、  
劉姑娘の諫言を聞かず、厨房で赤子の尻を  
洗うと、天罰が下る。

「改過換子」(九十七～一百二葉)(宣一場)一吝  
嗇。昔年、蓬州、宋長福。吝嗇で、双生児  
が生まれて悔悟し、善行に努めるが、二子  
とも病死する。冥界に行くと、善悪都司が  
家産を蕩尽する二子を殺したと告げられ、  
改めて二子を授かる。

「悔過活命」(一百三～一百七葉)(宣二場)一傲  
慢。井研県(四川)、余秀才。傲慢で、誤っ  
て無罪の人間を捕らえたため、不幸が訪れ  
る。悔悟して文昌帝君に許され、この案証  
を『万選青錢』に収録した。

卷三には種々の善悪の案証を載せている。

「三喜臨門」(一～四葉)(宣二場)一善行の阻害。  
梁溪県、陸歩瀛。妻万氏の父国順と姑は歩  
瀛夫妻の善行を妨害するが、銀を発掘し、  
科擧に及第し、一子が生まれる。国順の家  
は落ちぶれ、国順は一人生き残って乞食を  
し、陸家の門前で死ぬ。

「天送状元」(五～十葉)(宣二場)一善行の阻害。  
昔、湖広、蘇正栄。病母のために夫婦で錢  
米を買うが、盜賊に盗まれて母子ともに重  
病に罹る。表兄羅文通は悪意で下薬を与え  
るが、吐瀉して母子は快復する。文通は借  
金の返済を督促してその妻馬氏を奪おうと  
するが、馬氏は教師舒翁が年給をはたいて  
救い、舒翁は将来出世する運命を持つ一子  
舒芬を授かる。

「蓮花現母」<sup>23</sup>(十一～十五葉)(宣一場)一孝子。  
昔、西安、楽仲。股肉を割いて病母に勧め  
る。母が死ぬと善行に努める。病気で墓参  
に行けないと亡母が訪れ、南海にいると告  
げる。楽仲は途中で娘と同行して南海に至  
ると、蓮花の中に母親が現れる。帰宅して  
道士の歌を聴いて結婚を考えて病気になる

が、先の娘が現れて結婚し、一子阿辛を儲  
ける。娘は散花仙女であつた。

「孝魂礼仏」(十六～二十葉)(宣一場)一孝女。  
昔、太平崗、呉大貴の娘癸女。貧家のため  
幼女で花家に嫁ぎ、その靈魂が姑の病氣治  
癒の願解きに鶏足山に参拝すると、香が飛  
んで正殿の香炉に刺さり、皇太后の願解き  
に來た宦官に咎められるが、開元帝が孝烈  
一品夫人に封じる。

「稍靈悔罪」(二十一～二十五葉)(宣一場)一不  
孝。昔、王徳昭。放蕩息子で、父母の死後、  
二子に追い出されて衆人に不孝を戒める。

「全靠天話」(二十六～三十一葉)(宣一場)一不  
孝。道光間、嘉定府、何其堂の子継科。結  
婚して家にいて何もせず、財神が孝行をす  
れば富貴が得られるという天の話を伝える  
夢を見て、父母を扶養すると、商売が順調  
にいき、家が繁栄する。

「忠孝節義」(三十二～三十六葉)(宣二場)一勤  
勉。康熙間、山西太原府、張明德。長子至  
新は賭博癖があつたが、次子至誠は聖諭を  
聴いて天理良心を育て、趙明盛の店の經理  
となって、娘婿に迎えられる。

「女中君子」(三十七～四十一葉)(宣一場)一貞  
節。乾隆間、封翠姑。駱正彰に嫁ぐが、嘉  
慶初年の王三槐の反乱で正彰が死に、三子  
が修行で家を出たため、三人の嫁とともに  
綿花を紡いで家計を立てる。病気になるが、  
孝子孝婦が世話をする。

「状元拜墳」(四十二～四十六葉)(宣一場)一貞  
節。昔、天全州(四川)、三弟李大興が死ぬ  
と長兄大彰はその妻王氏に再婚を迫り、次  
兄大栄の諫言を聴かず、江西の楊商人に売  
る。王氏は途中で男子を出産し、男子は後  
に状元に及第する。王氏は子に大興の墓参  
りをさせ、大栄夫妻を迎える。

「聖帝搬家」(四十七～五十一葉)(宣一場)一姦淫。  
道光間、遂寧県、周一の婚約者謝氏。賢明  
で、母が婚約解消を主張するが結婚する。

王二が泥酔した周一に頼まれて家に行き、謝氏を姦淫しようとするが、謝氏は縊死し、関帝に訴えると、関帝像が謝氏の墓前に移動し、王二を斬首して謝氏を復活させる。

「祖上有徳」(五十二～五十五葉)(宣一場)一姦淫。福建、呂清。好色で、亡祖父に冥界に連行され、姦淫の応報を見せられ、悔悟して二子を儲ける。

巻四にも種々の善悪の案証を載せている。

「天官賜福」(五十六～六十四葉)(宣一場)一貞節。昔、永興県、許福田の嫁妙香。福田は善行を積んで天官から子を授かったため、夢生、字九齡と名付け、清河県の李元善の娘妙香と結婚させる。九齡は殿試を受験して病死と誤解され、妙香は再婚を迫られるが河に身を投げたため、求婚者は婚約を破棄する。妙香は香山寺で観音に祈り、壁に詩を題すると、皇帝に文才を認められて内相に抜擢された九齡が帰郷し、香山寺の題詩を見て媒酌婆を処罰し、一家は繁栄する。

「二姓同栄」(六十五～七十葉)(宣一場)一忠厚。邱懷徳。母によって育てられ、陳大爺の仕事を手伝って誠実さを認められる。後に陳家の二子に武芸を教え、劉老師の援助で秀才に合格して、陳大爺の娘を娶り、陳家の子とともに武挙に合格する。

「忍気旺夫」<sup>24</sup>(七十一～七十四葉)(宣二場)一忍耐。陳氏。金陵の秀才李萼に嫁ぎ、貧困を嘆く李萼を慰める。向かいの王老陝が鶏を盗んだと誤解して持ち去るが、李萼には猫が盗んだと告げる。王老陝は誤解が解けて李萼に科挙の旅費を都合し、李萼が科挙に及第する。

「忍敵災星」(七十五～七十八葉)(宣一場)一忍耐。宜興、張遵文。占い師から殺人を免れるためには忍耐せよと示唆されたため忍字を見て耐え、耐えなかった李豆腐が殺人を犯して斬首される。

「紅蛇纏身」<sup>25</sup>(七十九～八十二葉)(宣一場)一殺生。昔、李黄氏。娘を溺死させると、紅蛇となって李黄氏に纏わりつき、乳を吸って成長し、ついには身体を食い尽くされる。

「案中有案」(八十三～八十九葉)(宣二場)一殺生。本朝、蓬溪県、楊犛子。殺生を好み、叔父張大徳が事例を挙げて諫めるが聴かず、身体に泥鱸が生えて苦しんで死ぬ。

「成敗由婦」(九十～九十五葉)(宣一場)一賢妻。虔州(浙江)、陳子宣の長子鳳山の妻羅氏。次子鳳岡は聡明だが学校を嫌い、妻余氏も読書に反対し、兄夫婦を讒言して分家し、遊蕩して夫婦は梅毒で死ぬ。鳳山は愚鈍であったが、妻羅氏が読書を勧めたため、出世する。

「倪氏勸夫」(九十六～一百二葉)(宣三場)一賢妻。陝西涇陽県、李正初の嫁倪氏。飢饉になり、正初は妻艾氏の勧めに従って慈善に努めると一子陽春を授かる。陽春は学友に唆されて遊郭に通うが、妻倪氏が説得して矯正する。

#### 四 案証の改編

案証はおおむね冒頭に講説を置いてわかりやすく述べている。例えば巻一「全家福寿」では、最初に格言詩を置いてそれを解説し(一百十五字)、次に案証を置いて例証する形式を取っている。

「父母恩情大如天、従頭細想有万千。苦口深相勸、子媳還須孝為先。」在位、你想父母懷你、生你、養你、教你、憂你、望你。這些恩情、是大如天否。……我見一家人、兒孝媳孝、孫男孫女、皆有孝道、後來發富發貴、享福享寿、真是愛人。待我講跟你聽。「親の恩情ありがたく、数えてみればきりが無い。説教口に苦いけど、夫婦は孝を尽くすもの。」皆さん、親があなたを懐妊し、

扶養し、教育し、心配し、期待した恩情は天のように大きいではありませんか。……小生は、夫婦が孝を尽くし、孫や孫娘も孝行者で、のちに富貴になり、福寿を享受するという素晴らしい一家を見ましたので、皆さんにお話ししましょう。）

そして『緩歩雲梯集』（同治二年〔一八六三年〕復刊）等、本書よりも先に出版された宣講書収録の案証を引用する際にも、このように冒頭に講説を付加している。また文中の表現は、取材元の宣講書のものをおおむね簡略化してわかりやすくしている。さらに途中で「在位」と聴衆に語りかける言葉を挿入したり、人物の感情を表現する「歌」（宣）を挿入したりするのが特徴である。

### 1. 『緩歩雲梯集』の改編

いま主たる相違を比較してみると、以下のよう  
に『緩歩雲梯集』の叙述の方が具体的であり、  
原典であることがわかるが、講説は『万選青錢』  
「沈香報孝」の方が詳細である。

卷一「沈香報孝」（二千一百三十六字）／『緩歩雲梯集』卷一「沈香報孝」（貧兒孝）（一千八百二十六字）

1. 〔講説〕八反歌<sup>26</sup>云「富貴養親易、親常有未安。」（三百九十四字）／無論貧窮富貴家、親恩都宜報答。（七十七字）
2. 娶妻林氏、生一子、早死。／請媒娶妻林氏、隔年生一子、取名張大、早死。
3. 只得当天許願。／只得对天許一個千石宝珠壇願。
4. 保佑我爹病好、吃得飯。／保佑我們爹不冷不熱、不打糊説、明朝就好起来、吃得兩碗飯。
5. 此柴是何人卖的。／此柴何人所卖。此言一出、一呼一百諾、将二娃驚醒。
6. 二娃是個愚夫俗子、從未見過皇上、嚇

得戰戰兢兢。／×

卷一「雷神全孝」（二千六百五十八字）／『緩歩雲梯集』卷一「双孝報」（兒媳俱孝）（二千八百二十二字）

1. 〔講説〕帝君有云「試問身從何來、親為生我之本。」<sup>27</sup>（一百二十七字）／世間有兒孝媳不孝的。（一百二十三字）
2. ×／（艾氏勸道）我已經五十、曉得是無生育了。
3. 〔講説〕在位、為人總要聽勸。你看張全聽劉老師相勸、多行善事、所以才生子。／×
4. 〔講説〕（是你們）殊不知張全刻薄成家、天老爺要把他孽錢消完、受尽困苦、才得昌盛。／×
5. ×／（何三幸道）此話我今朝回去、明天我去对你丈人説。
6. ×／媒人説、「你丈人与你帶得有幾句話話來。」
7. 「想成此事不非輕」（八句）／「要接此親不非輕。他的親戚他得很。送轎怕有十棹零。」（十六句）
8. 我匱內有了二千。／我匱內有了二千。還争十二千、又在何処去借。猛想起我幫吳大公。……
9. 多做兩年活路、就可除賬。／除了今年五吊六、明年五吊六、我添八一百就還了。
10. 那晚下張天賜進房去。／那張天賜把所借的棹子板橙送還人家、已經黑了、才進房門。
11. 我害怕得很。／我遲<sup>16</sup>子与你做九牛鑽孔的道場。

卷一「四逆遭誅」（二千一百三十六字）／『緩歩雲梯集』卷一「四逆遭誅」（兒媳俱不孝）（一千八百九十六字）

1. 〔講説〕帝君有云「這如今老天爺不同

了。」(二百五十四字) / 我聖朝把聖諭頒行天下。第一条……。(二百二十字)

2. 雲南富民縣。 / 本朝嘉慶年間、雲南富民縣。
3. 余明星提養老錢四一百串、放賬 <sup>𠵼</sup> 谷子吃。 / 幸喜分家之後、族人與余明星提錢四一百串、每年放借、<sup>𠵼</sup> 回脚谷二十石、以為養老之用。
4. [講說] 你們說、這宗忤逆不和、全無孝弟、天老爺都莫得報應嗎。有報應嘞。 / ×
5. [歌] 「想我們、夫婦間、把兒撫養。……既不孝、又不弟、憂壞為娘。」 / ×
6. [講說] 在位、人人都是養喂兒子接媳婦。假如你的兒媳、也是重憂你。…… / ×
7. × / 側近有一叫化子、來在城隍廟、……只聽余大爺夫妻哭泣殿下、總求城隍賞點祭祀。……
8. [講說] 全家概行都死絕。你們說、值得不值得。願世人常把父母恩情想。…… / ×

卷一「文武狀元」(一千七百二字) / 『緩步雲梯集』卷一「双狀元」(順孫)(一千四百五十五字)

1. [講說] 從來講到孝字、人人曉得要孝順父母、而不知父母之父母。(三百二十二字) / ×
2. 昔祝家沱、有一人名祝辛。 / 膠州祝家沱、有一人姓祝名辛。
3. 守着祖墳大哭一場。 / 守着墳墓大哭一場。 [歌] 跪墳台眼淚落、傷心話兒肚內多。……
4. [講說] 他是怎麼說法 <sup>𠵼</sup>。我就依言唱與你們聽。 / ×

卷一「遇雨談恩」(一千七百五字) / 『緩步雲梯集』卷一「望雪談恩」(一千四百六十七字)

1. [講說] 人生在世、為兒子固當要孝順父母。(二百八十二字) / 人生在世、為兒子固當要孝順父母。(八十五字)
2. 昔有一人、名余先達。 / 嘉魚上谷村、有一人、姓余名先達。
3. [講說] 在位、古話說、「生人妻、古人墓、惹到就是禍。」…… / ×
4. [講說] 此不得其死、然者亦由於不惜古墳之報也。你們聽了、就要各自小心才好。 / ×
5. [歌] 尊一声我婆婆耐煩聽講。(一百二十字) / [歌] 守着婆婆傷心苦。(一百四十字)
6. [講說] 在位、這宗忘恩負義的孫兒、天老爺沒得報應嗎。 / ×
7. [講說] 你們說、這宗人有点良心氣否。 / ×

卷二「二虎同埋」(二千一百五十七字) / 『緩步雲梯集』卷二「双虎墳」(不和妯娌)(一千八百九十三字)

1. [講說] 婦女潑薑本不該。……(二百八十八字) / 勸婦人要從順。……(一百三十字)
2. 梁山縣、陳錫之女。 / 梁山縣、北家 <sup>𠵼</sup>、陳錫之女。
3. 自嫁與李能魁為妻以來。 / 自嫁與李敬之子李能魁為妻以來。
4. [講說] 此惡婦得罪一家人、天地神靈記得清楚、後來定有慘報的。婦女斷不可學他 / ×
5. [講說] 在位、依王法看來、凡婦人打丈夫、杖一百。…… / ×
6. × / 李三雜種、你拖牢眼、打牢棒的。……
7. [講說] 在位、分明女兒多不是、反與女兒長志氣。…… / ×
8. 儘他吵個氣醒。 / 才與他娘母叩頭說、永不敢得罪他的女兒、又辦酒菜待承他。
9. [講說] 你們說、這是慣女的報應否。要



曉得慣女是一名大罪。／×

卷二「假鬼護節」(二千一百三十六字)／『緩步雲梯集』卷二「假鬼獲節」(節烈報)(二千五百三十二字)

1. 〔講說〕婦女以節孝為先。……(一百八十七字)／婦人家節為先。……(一百四十三字)
2. 会理州、離城二里、有一家。／本朝康熙年間、会理州離城二里、地名西關、有一家。
3. ×／無如他婆婆牟氏、心腸最毒、朝日刻苦、……而林氏竭力奉養、不起怨恨一点之心。
4. ×／這張裁縫……存厚見他為人誠實、平素都在家中縫衣服的。……
5. ×／時才妻子煨藥、看見吳二爺直進母親房去、妻子嚇倒在地、……
7. ×／總要謀你棟手。淫心發動、……
8. 〔講說〕在位、休道天高無耳目。虧心、暗室有遊神。……／×

卷二「宮花入夢」(二千一百六十字)／『緩步雲梯集』卷二「宮花入夢」(女惜字)(一千六百八十三字)

1. 〔講說〕如今士子……識字而不敬字。(四百七字)／聖賢制字以治天下。(一百二十三字)
2. ×／鼓樂喧天、旌旗繞地。乘轎而來、乘轎而去、真是鬧熱。
3. 〔講說〕在位、天地間有此好婦女、豈無善報嗎。／×
4. ×／良夫将要臨產、每到下半日、有一鬼抱一個紅叫雞。……何方產難鬼害、……
5. 十八歲會進士、中探花。／十六歲下會場、在号中睡着、見一人……連写宮花二字而去。
6. 〔講說〕在位、此一孝女、能惜字、能勸

人、兒孫就有探花狀元之報。／此是女子能敬字、又能勸人之好報。

卷三「蓮花現母」(二千一百三十六字)／『緩步雲梯集』卷三「蓮花現母」(富兒孝)(二千四十六字)

1. 〔講說〕講到孝字、義理無窮。……父母死後亦當孝。……(一百九十四字)／×
2. 常聞人言說道、婦女家……吃齋以唸南無阿彌陀佛六字經、不必入廟燒香。／老母好吃齋。……樂仲常對母泣訴道、〔歌〕「我老娘年紀邁血氣衰弱。……」
3. ×／不想老母那日害病昏迷之時、……將股肉割下、烹與母食。食畢而死。<sup>28</sup>
4. 樹子也哭了三年。／却也奇怪。……那無花果上就滴水出來、如人流淚一樣。
5. 〔講說〕這就是死後盡孝。你們好生照樣做。／×
6. ×／先是村內有結香社到南海者。樂仲壳田十畝、將銀去結香社。<sup>29</sup>
7. 〔講說〕在位、這都是樂仲的孝心感動天地神靈、故所以才有這宗好福分。／×
8. 身坐蓮花之上。／肚皮上面開一朵肉蓮花。<sup>30</sup>
9. ×／阿辛忽想父親之言、頂門一針、速又開墳相驗。

卷四「忍氣旺夫」(一千七百二十八字)／『緩步雲梯集』卷二「雞進士」(代夫忍氣)(一千六百八十字)

1. 〔講說〕忍忍忍、忍為衆妙之門。(二百五十一字)／忍氣二字乃天下之至寶。(一百九字)
2. 〔歌〕……這一陣好叫人氣得吹鬚。〔講〕陳氏笑道、……到底你那鬚子在那裡。／……×
3. 〔講說〕是如今有些婦女、看見你這樣窮困、早已哭流哭滴、吵得你天紅使氣發氣、憂得死你。／×

4. 〔講説〕是不忍氣的婦人明說了。明說必惹禍。／×
5. ×／你不懂文話。陳氏道、那猫兒黃色、不是得文画匠的麻猫。
6. 〔講説〕此回提雞之事、該也說得。你看陳氏還忍住不說。／×
7. 我這功名、全靠賢妻忍氣而得。／如此說來、者四個雞腿子、都該你吃了。
8. ×／從此案看來、婦人能替男人忍氣、又有雞腿吃、又当太太、好嗎不好。
9. 〔講説〕此事伝聞街鄉、人人称太太賢德、个个学太太忍氣。／×

## 2. 『觸目警心』<sup>31</sup>の改編

長編を他の案証と同じく短くまとめ、講説を加えて主題を明らかにしている。

卷一「太乙指地」(二千五百八十八字)<sup>32</sup>／『觸目警心』卷五「太乙指地」(八千七百九十一字)<sup>33</sup>

1. 〔講説〕事親竭力出性真、……。在位、要曉得天老爺与人無親戚、只愛人修德。(一百五十六字)／事親竭力出性真、……。(九十一字)
2. 即当雨雪霏霏、行道遲遲之際。／那年冬月十八日、正是大雪飄飄、烏雀難飛。……
3. ×／〔講説〕各位、像這樣天寒地凍、冷風透骨、人多与妻子围炉、連門都怕出的還有。……
4. 〔講説〕在位、張豆腐心上会想、你們也学他不忘親恩、便是孝子。／×
5. ×／〔講説〕各位、是在於今婦女、丈夫留一乞丐到家、還怕会吵将起来。
6. ×／是夜、送老人灶房安寢、轉至房中。吳氏道、我們不如合衣而臥。……
7. 張豆腐歸家、怪其妻。／張豆腐買些酒肉歸家、問及老人、吳氏便言留不住。張豆腐蹬足。……
8. ×／老人曰、他這個月十五要遭火燒

嗎。……天明就去勸他莫憂氣、……送一百樣你都莫要。

9. 個々推神保当太爺審案時、……凡有不遵父母教者、……神保問明。……<sup>34</sup>／神保見群小兒中、多有不遵父母教訓、……每日装太爺審案。……
10. ×／〔講説〕各位、人有善念、天必佑之。你們若能尽孝、也是要生好兒子的。
11. 〔講説〕在位、這是張豆腐大有孝道、兒子才有這奇緣。／×
12. 接個廩生李老師、单教伊子黄正中、神保張体仁。／接個廩生李逢春、单教伊子黄正中、与神保上学時更名張体仁。
13. 一日私自上街、花錢学套把戲、是個移眉法。／一日上街去買紙筆、見有耍把戲的、真足取彩、伊即請到茶館、言要学一二套。……正中見摺上有移眉法。
14. 〔講説〕在位、要曉得張体仁中举、因父行孝也。黄正中不中、因侮慢師長也。／×
15. ×／報子道、這封書是李老師叫我送在外府中来的。……〔謳〕叫夫人上前来你且聽話。……

## 3. 『宣講集要』<sup>35</sup>の改編

長編を二分の一に短縮しながらも、講説は重視して加え、主題をわかりやすくしている。

卷二「欺兄庄弟」(一千七百一字)／『宣講集要』卷六「悔後遲」(二千三百十七字)

1. 〔講説〕從來父母養兒、無有不望弟兄和氣者。(二百九字)／×
2. 七刁唆、八刁唆。／常对丈夫說道、「哥哥兄弟兒女成人、……不如早些分家。……」
3. ×／〔宣〕大哥哥你說話实在欺我。……
4. 〔講説〕此哥子兄弟都好、独朱老二不好。這天地神靈、豈無善報与惡報嗎。／×

5. 光頭大挑一等為知県。／光頭大挑一等、放石泉県知県。
6. 毛氏改嫁、遭凶而死。／毛氏無靠、改嫁石泉県客商、名周才。……打死弟媳。……
7. 〔講説〕此案看来、……你們当要学他才好。……／×

#### 4. 『宣講彙編』<sup>36</sup>の改編

同様に長編を短縮しながら、講説を加えて主題を明らかにしている。

卷四「紅蛇纏身」(一千七百四字)／『宣講彙編』卷四「紅蛇纏身」(二千五百字)<sup>37</sup>

1. 〔講説〕人生在世、生男生女、原由命定。(三百四十四字)／×
2. 昔、有婦人、李黄氏。／昔陽県(山西)、有一陳一清。其妻許氏。
3. 〔講説〕在位、李黄氏以為自己生的、治死他也莫殺来由。……那冤魂豈与你甘休嗎。……／×
4. ×／此由許氏不信報応、六戒犯完、大小月汚穢灶君、兼之溺女心毒。……
5. 〔講説〕在位、要曉得打胎溺女是大罪、依王法就該要杖一百、徒三年。…／×

## 五 結語

『万選青銭』四卷は清末民国初期に湖北・四川地方で編纂された宣講書である。簡易本でありながら冒頭に「宣講聖諭規則」を掲載しており、伝統的な形式を留めている。四卷本であるゆえに、聖諭に則って案証を掲載しているわけではなく、卷一には主として孝不孝案を収録してはいるが、他の卷には様々な善悪応報案を掲載している。本書の文体を分析してみると、『緩歩雲梯集』などの宣講書から案証を選出しているが、そのまま転載するのではなく、聴衆に語りかける講説を各所に置いて勸善の主旨を強調しているところに特徴がある。また長短不揃

いの案証も、おおむね一葉内に納めて、独立した案証として刊行できるような工夫もなされている。娯楽性が強くなっていく宣講よりも以前の素朴な宣講を代表するテキストだとみることができよう。本論では封面を有する宣統二年翻刻本第一冊を用いながらこうしたことを考察した。

## 注

- 1 一本万利書業、二〇〇九年五月、孔夫子旧书网出品。宣詞を改行する、字句を些か異にするなどの相違がある。
- 2 「山坡」(復旦大学・京都外国語大学共編『漢語方言大詞典』[一九九九、中華書局]、五八八四頁)
- 3 本書には「宣講聖諭規則」と称していない。『宣講集要』の命名により、便宜的にこう称した。
- 4 早稲田大学本には「宣講生宜三跪九叩」八字を省略する。
- 5 早稲田大学本には「宣講生宜三跪九叩」八字を省略する。
- 6 早稲田大学本には〔宣講聖諭規則〕前一葉～前六葉のうち、前五・六葉に記載する高邑以下の事例を欠く。なお前四葉裏の最後は「豈有求福求」で終わっており、前五葉表の「寿求富貴求兒子、還求不倒嗎」と続く。すなわち早稲田大学本はこの部分を省略したのではない。
- 7 早稲田大学蔵本は目録を欠く。
- 8 早稲田大学蔵本では卷三に収録する。
- 9 宣統二年翻刻本では卷三に収録する。
- 10 葉数は完本早稲田大学蔵本によった。ただし早稲田大学蔵本にない案証の葉数だけは宣統二年翻刻本によった。宣統二年翻刻本では一葉の途中で前の案証が終わって次の案証が始まるが、早稲田大学蔵本では一葉の最終行で前の案証は終わり、次の葉から次の案証が始まる。
- 11 『緩歩雲梯集』卷一「沈香報孝」(貧兒孝)
- 12 『緩歩雲梯集』卷一「双孝報」(兒媳俱孝)
- 13 『觸目警心』卷五「太乙指地」。早稲田大学蔵本は第十七葉を欠く(宣統二年翻刻本では第十七葉裏三行目から第十八葉裏二行目までの四一三三二字に相当する)。
- 14 『緩歩雲梯集』卷一「四逆遭誅」(兒媳俱不孝)
- 15 『緩歩雲梯集』卷一「双状元」(順孫)
- 16 『緩歩雲梯集』卷一「望雪談恩」(孫不順)
- 17 宣統二年翻刻本の葉数。
- 18 同上。
- 19 『宣講集要』卷六「悔後遲」
- 20 『緩歩雲梯集』卷二「双虎墳」(不和妯娌)
- 21 『緩歩雲梯集』卷二「仮鬼獲節」(節烈報)
- 22 『緩歩雲梯集』卷二「官花入夢」(女惜字)
- 23 『緩歩雲梯集』卷一「蓮花現母」(富兒孝)
- 24 『緩歩雲梯集』卷二「雞進士」(代夫忍氣)。『宣講摘要』卷二「助夫顯榮」では李萼を黄玉堂とする。
- 25 『宣講彙編』卷四「紅蛇纏身」。

- 
- 26 「勸孝八反歌」。
  - 27 『文昌帝君元旦勸孝文』。
  - 28 『聊齋志異』「樂仲」には、「後母病、彌留、苦思肉。仲急無所得肉、割左股獻之。病稍瘥、悔破戒、不食而死。」
  - 29 『聊齋志異』「樂仲」には、「会隣村有結香社者、即売田十畝、挾資求借。」
  - 30 『聊齋志異』「樂仲」には、「股上封痕、化為兩朶赤菡萏、隱起肉際。」
  - 31 早稲田大学風陵文庫、上海図書館蔵。五卷。光緒十九年（一八九三）、沙市（湖北）善成堂蔵版。
  - 32 早稲田大学風陵文庫本は第十七葉を欠く。二千五百八十八字の中にはこの一葉の字数を加えている。
  - 33 「採取『増訂輯要』」と注記する。『増訂輯要』については不詳。
  - 34 張豆腐の子神保が太爺に扮して子供たちと裁判ごっこを行い、それを見て感心した黄員外が神保を女婿とする場面。早稲田大学蔵本では欠落した第十七葉部分に相当。いま宣統二年翻刻本によって補う。
  - 35 国立中央図書館台湾分館蔵福建復刊本。咸豐二年（一八五二）挙人陳光烈序がある。
  - 36 早稲田大学風陵文庫蔵。四卷。光緒戊申三十四年（一九〇八）、経元書室復刻本。
  - 37 「採取『破迷箴砭』」と注記する。『破迷箴砭』については不詳。